

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372401069
法人名	社会福祉法人熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホーム へたみ家
訪問調査日	平成 20 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 30 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4372401069
法人名	社会福祉法人熊本厚生事業福祉会
事業所名	グループホーム へたみ家
所在地 (電話番号)	熊本県玉名市天水町部田見1214-15 (電話) 0968-82-5528
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6-41-5
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(平成19年12月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	9.2 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 / <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造平屋造り	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26200(生保)~29400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	156 円	昼食 390 円
	夕食	234 円	
	または1日当たり		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	3 名	要介護2		2 名		
要介護3	1 名	要介護4		3 名		
要介護5	0 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	87.5 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ塔病院、玉名中央病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「へたみ家」は、展望の良い高台にあり、自然に溶け込み四季を感じる事のできる佇まいとなっている。隣接する母体施設「介護老人保健施設てんすい倶楽部」との入所者同士の定期的な交流や合同の職員研修もあり、連携が図られている。「何でもござれ帳」を導入し、職員同士でケアの方針や気づき、疑問点等を他の職員に意見を求め、職員全員であらゆる問題に取り組んでいこうという姿勢があり、チームワークの良さが、入居者の穏やかな表情に繋がっていると思われます。入居者は居室でくつろいだり、食堂でテレビを見たりし、ホーム内での生活が特別ではなくゆったりと、自分のペースで生活できる家庭的な雰囲気が見受けられた。また、食事は職員が入居者の好みを把握し、形や色どり、健康に配慮された家庭的な献立となっており、環境整備にも力を注ぎ、清潔感あふれるホームとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価をうけ、玄関口に手作りの桜の作品を掲示したり、談話室やトイレ等に季節の花を添える等、温かい雰囲気作りの工夫が見られた。さらに老人会へ出向き介護についての情報提供を行なうなど地域貢献も行い、評価結果を検討し、改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員が分担して記入し、管理者がまとめたものを再び職員に還元している。自己評価を作成することで、職員の意識が変化し、職員の協力的な姿勢や意見が聞かれるようになった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月ごと定期的に行われ、老人会・民生員・行政・地域包括支援センター・家族、さらに地域の方など、計17名程度の参加がみられた。ホームの活動状況等を報告し、家族や地域住民の意見を汲み取る会合になっており、また、各々に情報交換する機会としても活用されている。認知症の知識を高めるためにミニ講習を行っており、認知症の理解を促す努力が行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日帰り旅行や運営推進会議、敬老会等への家族参加を促し、日帰り旅行には4~5家族、運営推進会議は4家族と半数近くの参加がある。ホームの行事への参加を促す事で家族との信頼関係を深め、意見の汲み上げが出来るようになってきている。また、家族訪問の際にも意見を引き出す声かけが心がけられている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人主催で行われる老健と合同の「夏祭り」には地域の方々が1000人近く集い、多くの地域住民との交流が図られている。また、保育園や幼稚園、小学校や中学校の行事へ積極的に参加し、さらに中学生のボランティアには、グループホームの機能や認知症の説明をし理解を深める努力があり、孤立しない生活への支援が行われている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心して穏やかに暮らす」この理念を基本に6つの方針が職員によって作成されており、グループホームの運営に欠かすことの出来ない内容となっている。また、地域密着型としての理念を意識した内容を取り入れる計画があり、グループホームが地域に密着したサービスとしての視点が確立される事に期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの談話コーナーには、正面に6つの基本方針を大きく掲げ、職員トイレにも掲示する等、理念を職員の身近な存在とし、日々のケアの基本とする取り組みがみられた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する介護老人保健施設「てんすい倶楽部」との「生き生き交流会」や「玉名市天水健康福祉まつり」では入居者が作製したアクリルたわしの販売を行ったり、俳句等の作品を展示するなど、ホームと地域の交流が行なわれている。また保育園や幼稚園、小学校や中学校との交流もあり、孤立感のない暮らしづくりが展開されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を職員全員が分担して取り組み、外部評価に臨んでいる。管理者は現状を把握したうえで、各項目毎に求められている意義の理解に努めている。以前は和室に置かれたテレビが活用されにくい状況であったことから、空間を狭くせず見やすい配置として、事務室にテレビを埋め込んで食堂の広さを維持し、いつでも見られるように改善されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の女性がメンバーに加わり、女性ならではのアイデアで「アクリルたわし製作」の案が出され「へたみ家」のバザー出品物として定着している。待機者の問い合わせや高齢者の好物の料理を尋ねたり、「慰問に来たい」との要望や、老人会の催し物への参加の誘いもあり、地域の名所を教えてもらう等、地域との交流を深める場ともなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議には天水支所からの参加がある。インフルエンザやノロウイルス等の感染症の流行前には文書をFAX等でやり取りをして情報を得る他、事故や緊急時等には直接電話で尋ね連携し、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	半年に1度、手作り新聞を発刊している。家族のほか地域の方々に見てもらえるように回覧板に挟みこんでもらっている。また突発的な受診や健康状態が変化した場合受診前に電話で連絡している。	○	ホームへの訪問が遠のいている家族に対しては、利用者や家族向けの手紙や新聞を作成し、職員の異動等も写真やコメントを掲載し報告する事で、顔の見える関係が築かれ家族との距離も縮み、信頼関係が増すと考える。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が設置されており「明るい笑顔がいいですね」との投稿はあったものの要望や苦情は見られない。運営推進会議の出席者は代表制とせず、多くの家族の参加があり、質問や意見も出しやすいように工夫がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動の際には事前にホームを訪れ、馴染みの関係を築く努力がなされている。新人には「ひとりひとりの個性を大切に」の想いや、個々のケアのあり方について管理者が直接指導。また、マニュアルに基づく業務指導を行い入居者への配慮が行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修は、月に1度のスタッフ会議や1日の流れの中で比較的落ち着いた時間帯に行なわれている。研修は、法人から残業代補助研修、勤務代補助研修、参加費補助研修の3段階に設置し、勤務状況と経験や立ち場などに応じた参加がシステム化されている。また、補助のない自由参加の研修についても、自分のレベルにあった研修へ意欲的な取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名市内の9事業所が集まり、空室状況を確認し連携しあう事で長期待機者を防ぐことに役立たせている。グループホーム連絡協議会では、口腔ケアや料理法の学習会やカラオケ大会等を開催し、交流と情報交換を行っており、同一法人のグループホーム「ほたる家」との職員の相互訪問を行ない、交流と実習研修も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体の老人保健施設からのホーム入所の際は管理者が面会に行き身体状況等の把握をし、顔なじみの関係を築く努力をしている。待機者に関しては、入居前に家族と連携を取り、少しずつ関係作りの構築に力を注ぎたいとの意欲的である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼食の場面では入居者同士が支えあう場面が見受けられた。職員は菜園の虫の駆除作業やその方法等を入居者から学び、ブロッコリーやほうれん草、ネギなどを入居者と共に菜園で育て、食材に利用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞いて欲しい人、散歩が好きな人、買物が好きな人等、入居者には多様な意向があり、プライドや個性を大切にし、個別の支援に努めている。歩行が不安定な入居者に対しても行動を制限せず、入居者が望む生活を第一に考えた見守り支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	午後2時から3時まで入居者の落ち着いた時間にカンファレンスを行い、ICFモデル(国際生活機能分類)を基に入居者の残存能力等を記入し、介護計画に反映させている。加えてセンター方式シートを利用する等、さらなる質の向上への努力がみられた。センター方式シートを活用し、汲み取った希望や意向をICFモデルシートで管理すると、情報が一貫して集約されると思われる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月に1度の見直しを行い、状態が変化した際には適宜介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族訪問時に説明する他、近隣の家族には直接自宅訪問し、遠方の家族には郵送して家族説明を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方から訪問する家族には、宿泊可能な準備があり、家族支援が行われている。また、生活保護受給等の代行手続きや書類提出など、多様な支援も行っている。地域住民に「へたみ家新聞」を見てもらいたいと掲げた目標は、地域の回覧板に折込みとなって実現し達成されている。また、地域住民が集う温泉センターなどの施設に新聞やパンフレットを定期的に持ち込み、地域に対し「へたみ家」の情報を発信している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院、や他科受診の際には通院支援を行っており、家族や入居者の希望に応じた対応となっている。入居者の状態に変化が見られた時は、家族に報告し、家族の同意を得て受診する手順となっている。受診後の結果や検査内容等は家族に電話連絡し、家族の不安を排除する支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「へたみ家入居者病状悪化時の対応指針について」の文書を本人及び家族に説明し、現段階において看取り(終末期ケア)は行わず医療につなげる事を明文化している。ただ、ターミナル前期の入居者との関わりもある事から、ターミナルケアの学習会を開催し、職員の受け入れ姿勢を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	調査当日、トイレ誘導は小声で何気なく行われており、職員の入居者への声かけや対応は、親しい中にも年配者としての礼儀をわきまえた好感のもてるものだった。入所者の尊厳を大切に、個人情報も、研修を行い、個人記録方法を学習し、情報開示手順も考えられていた。	○	入居者がくつろいでいるリビングの丸テーブルに個人記録が広げられていました。突然の面会や近くに入居者もあり、記録の取り扱いに配慮が必要かと思われた。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前9時30分からの体操、10時からの歌の時間とホームの朝の日課があるものの、参加したくない人は自由に過ごせるように強制はせず、入居者は思い思いの個別の時間を過ごせるよう支援されていた。夜眠れない入居者に対しては、お茶や軽い食べ物で自然な入眠に繋げる支援を行っていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な料理を提供するために、職員が事前に1週間分の献立を立てる工夫がなされている。昼食に脂質等を提供し、夕食には胃に負担がかからない煮物や野菜を中心にし、誤嚥に配慮しながらなるべく形がかわる献立が工夫されている。また、入居者それぞれの茶碗や湯のみを使用し、家庭的な食事を楽しむ工夫もみられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は毎日自由な時間に入浴できるよう、昼夜2回に分けて入浴を楽しめる対応されている。職員は、30分ほどの入浴時間が、一対一でゆっくり入居者と関わることができる時間と認識し、じっくりと話を聞くことができるコミュニケーションの場として入浴を楽しむ支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗ふきやテーブルふきなど、開設当初からの役割を今でも行っている入居者もあり、日常生活の役割が入居者にも定着している様子が伺えた。また、習字や編物、俳句等の作品を披露する場の提供支援もみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	4月は桜、5月は藤、6月は菖蒲と、四季折々の花見に出向き、手作りの弁当を楽しむなど、季節を感じる機会を提供している。また、昨年は熊本動植物園に5家族と入居者・職員全員での日帰り旅行や、近所のファミリーレストランでの外食など、多様な希望に応じた外出支援の工夫がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	遅出の職員が帰宅する午後10時には施錠をされるが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。入居者の表情や様子を見守り、観察し寄り添うことで入居者の不安解消に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、消防署の協力を得て避難訓練が実施されている。避難訓練に対し拒否のある入居者には深刻さを排除した声かけ等で避難訓練に繋げる努力もみられた。地域住民との共同訓練にまでは至っていないが、運営推進会議で地域の協力を依頼している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に7回～8回の水分摂取を勧めており、水分摂取の少ない入居者には、特にお茶を勧め、一日を通して水分確保が行えるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の和室には大きな雛段が飾られ、こたつが設置され、窓から外の動きを眺める入居者が見られた。また、入居者それぞれに落ち着く場所があり、至る所に小花がさりげなく飾られ、心地よい空間を作りだしていた。ホーム内は清潔で臭いは全く感じられず、室温の温度調節もこまめに行われていた。換気も定期的になされ感染症予防に努められていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、使い慣れた馴染みのダンスや机、テーブルなど思い思いの調度品を持ち込み、花鉢や仏壇、家族写真、手製の飾りなどを置いて居室は個性ある雰囲気になっている。入居者によっては混乱防止に手洗いやトイレの位置をイラストで示す等、その人にあった工夫が見られ、入居者が心地よく過ごせる配慮が行われていた。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	へたみ家
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市天水町部田見1214-15
記入者名 (管理者)	淵 充子
記入日	平成 20 年 2 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとしてのイメージを持って作り変える方向にしたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	記録にも理念を反映させていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	日々の暮らしの中で、近隣の方が農作業されていたらこちらから挨拶するなどの声かけを行い、きっかけ作りをする。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の際、少しの時間を利用して認知症を理解するための学習を行っている、又地域の公民館での老人会の集いに出向き健康体操、血圧測定を行い地域貢献に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、ケアを振り返る機会となっている。評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて検討し、実践につなげている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の活動内容を報告すると共に、会議参加メンバーから質問、意見、アドバイスを受け、それをサービスの向上に活かし、さらに外部評価の検討課題の改善に取り組むことで質の向上確保に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	H19年度は保健所より感染防止の講義に来て頂いた。生活保護受給の方は、市保護課へ連絡、相談をさせて頂いている。	○	市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れ伝えていく必要がある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度、成年後見制度について勉強会を行い、全職員周知している。	○	現在のところ対象者はいないが、必要時には活用できる体制がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを定期的に行い、虐待防止法に関する内容について理解浸透している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を十分説明している、特に利用料金やグループホームでのケア、医療連携体制の実際、重度化や看取りの対応など詳しく説明し、同意を得ている、又利用者の状態変化により退去に至る場合は、本人を交えて家族と十分な説明と話し合いの段階、期間を経て相談している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満、苦情は苦情処理記録表にて提出することとなり、スタッフへの内容の伝達、又対策等ミーティングの中で検討を行っている。これらは運営者まで報告することとなり、又、運営推進会議にて報告する流れとなっている。	○ 利用者の意見、要望を出してもらう機会を検討する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、日頃の暮らしぶりや心身の状況を伝えている他何らかの変化問題が起きたときには電話による連絡を行っている。金銭支援をしている利用者については、使途の確認、金銭出納帳を明示し、その都度報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関カウンターにご意見箱を設置し、自由に意見、不満、苦情を書いて入れて頂くようにして、さらに県の相談窓口の連絡先を提示している。又家族の面会時には居室へ通し利用者の生活状況などを伝えたり言い出し易い雰囲気作りをしている。利用者意見と同様、運営者及び運営推進会議へ報告する流れとなっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われている上司、法人への職員の意見、要望を書面にて提出する機会(自己申告書)を設けている。又自由に提案書を提出するようになっており、反映されている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活に応じた職員のローテーションが組まれている。また、その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって馴染みの職員が継続的に対応することが重要であるが、やむを得ず異動や離職がでた場合はその重複期間を充分とりスムーズに移行できるように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会が設置され、施設内の研修、外部より講師を招き定期的に研修を行っている。施設外研修案内を掲示板に張り出し、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じてすべての職員が受講できるように学びの機会を確保している。研修参加後は全職員が共有できるように研修内容を報告する機会を作っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県グループホーム連絡協議会や玉名市部会には必ず出席し、他グループホームとの連携をとり、勉強会、相互研修を行い事業者同士協働しながら質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	全職員に1回/年のストレスアンケート調査を行い、問題を抱えている職員に対しては、個別対応を行っている。H19年度はストレスに関しての外部講師を招いて勉強会も行った。スポーツはソフトボール、ミニバレー、ボーリング大会など年間を通して行っている。4月には新人の歓迎会、12月は忘年会と、親睦の場を作り気分転換を図れる機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課制度(目標と勤務態度で評価)を導入しており、6ヶ月に1回一人1時間の面接を行い、じっくり話しをする機会を設けている。又、年に1回モチベーションアンケートを実施し、職員一人ひとりの思いを把握すると共に、必要な職員には個別に対応している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談する家族の立場に立って何に困っているのか充分話しを聴き、受け止めながら関係を築き、次の段階の相談につなげている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人、家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援を提案している。早急な対応が必要な相談者には柔軟な対応を行い、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用するために、利用開始前に本人、家族に見学に来てもらったり、施設で待機されている本人に会いに行ったりして少しでも関係作りをして利用に移行している。	○	本人家族がグループホームへ見学に来てもらったり、職員が出向いたり、遊びに来てもらったりすることを繰り返しながらグループホームの生活が安定するのを見極めて利用に移行する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的に介護する側にならず、本人から学ぶことも多く助け合いながら生活を共にしている。	○	利用者は人生の先輩であり、持っている知恵や文化を利用者に発揮してもらおう場面を作る。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしや課題が生じた時は家族の思いをたづねて職員と家族と一緒に本人を支えていくような関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	誕生会や敬老会などの行事には家族を招待して記念写真を撮ったり、季節の節目には本人にハガキを出していただくなど本人家族の絆を大切にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで関わってきた人達や地域社会との関係が途切れず継続できるよう支援している、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶会や食事の時間には職員も一緒に多くの会話をもち、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了し他の施設を利用中の方でも入居者と一緒に面会に言ったり、事業所にも職員と一緒に来てもらったりし、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向を、日々の関わりの中で把握し、情報を共有している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が自分らしく暮らしていくことを支援する為に、利用時に生活歴や暮らし方、個性等を家族、関係者から聴き取るようにしている。利用後も折に触れ本人や家族にどんな生活をしてたのか聴いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを理解し、動作や言葉からも本人の現状の総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見や要望を聞き、本人を良く知る関係者と話し合いアセスメントし、ケアマネを中心にして職員全員で介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に評価、見直しを行っている。その前に状態の変化(身体的、精神的)が生じた場合は、その都度本人家族と話し合い、ケアカンファレンスを行いその状態に応じた介護計画を立てている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに日々の様子やケアの実践、結果等を記入し、勤務時間前に全職員が確認し、共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足を高めるよう努力している。介護保険更新手続きの代行、国民健康保険税の支払い、日用品の買物等支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	同法人の施設と共に、民生委員、ボランティアには行事等の際に関わって頂いている。消防署においては、救急時の指導、避難訓練の指導を行って頂いている。又、学校関係との交流も定期的に行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人の通所や入所等とのレクへの参加や行事の開催等合同で行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センター職員が出席し、意見交換やアドバイスを頂いている。	○	地域包括支援センターとさらに協力関係を築き、周辺情報や支援に関する情報交換を行う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人家族の同意の元、事業所の協力病院あるいは利用者の医療の必要性に応じて複数の医療機関に受診している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同法人、老健施設長(精神科医)からのアドバイスあるいは、協力医療機関の医師から認知症への指示や相談に応じて頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援に関する情報を医療機関に提供し、時々職員が見舞うようにしている。又家族とも情報交換しながら相談に応じている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針について定め、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の病状が悪化した場合医療機関と連携し、できるだけ家族、本人の意向に沿ったケアを試みているが、死亡診断の課題があり終末期ケアまでは行っていない。	○	死亡診断の課題等、条件が整えられた場合は、終末期ケアまで行っていく方向。その為に職員教育を進めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が別の居所へ移り住むときは、生活環境、心身の状況や支援の内容、注意点など細かく情報提供し、本人がこれまでの暮らしの継続性が損なわれないように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	抑制廃止委員を中心に言葉の抑制等勉強しており、利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう、日々のケアの中で言動に注意している。特に他の家族や外来者に対して、個人情報保護の徹底に努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声かけを行い複数の選択肢を提案して、一人ひとりの利用者が決める場面を作っている。(飲み物、おやつ、菓子、他嗜好品等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分に合わせて可能な限り個別に支援するようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事や外出時にはお化粧したり、好みの服に着替えられる。又地域の美容室を利用しカットやパーマをしてもらうよう連携をとっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は旬の食材や、新鮮なものを採り入れ、利用者の好みのメニューを把握して苦手なものを踏まえたメニューを工夫している。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事することを大切な活動のひとつにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの嗜好物(飲み物、おやつ)を把握しており、好みの物を楽しんでもらえるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握して、可能な限りトイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は昼夜に分け、毎日入って頂いている。一人ひとりの状況に応じて安心とくつろいだ気分になるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や表情、外出行事等日中の疲れ具合に合わせて休息を取り入れている。夕食後は穏やかで安心した時間の過ごし方に工夫し、就寝に向けて活動的な内容のケアはひかえ、クールダウン的な静かな対応になるよう配慮を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとりの役割が自然と決まっており(食事の準備、後片づけ、洗濯物たたみ、配達)、それぞれの力を発揮してもらい感謝の言葉を伝えるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年齢を重ね認知症も進む中、金銭の管理が難しくなってきた支援する範囲が多くなってきているが、本人の要望もあり家族の協力を得て小額のお金を持っている人もおられ、お金のある安心感や満足感に配慮している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分転換やストレスの発散、五感を刺激する機会として四季折々の場所へ手作り弁当を持って外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の行きたい懐かしい場所や墓参り又は日帰り旅行を家族の協力を得ながら行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から来る手紙、小包等を歓迎し、入居者と喜びを共有している。入居者の希望があればいつでも電話の支援を行い、お盆や正月には利用者をご家族へ葉書を出す支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、いつでもご家族のいい時間に来ていただいている。ゆっくり居室で過ごして頂けるよう椅子や湯茶等の用意をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会を中心に2回/年の抑制の勉強会を開いており、さらに委員会の規定やマニュアルを基本にして、全職員が身体抑制をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアは徹底できている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、一緒に付き添う等安全面を配慮して自由な暮らしを支えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録などの事務処理や、ケアカンファレンスを行いながら、さりげなく全員の様子を把握している。夜間は2時間毎に利用者の様子を確認し、起きられたらすぐ対応出来る居場所を工夫しており、24時間利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によって保管管理が必要な物、利用者が使う時に注意が必要なもの等に分けて管理して危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ工夫や、ケアに取り組んでいる。インシデントを作成し、今後の対策を検討し、職員の共有認識を図っている。万一事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。事故に関する取りまとめはリスクマネジメント委員会が行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応出来るようにしている。夜間帯の人手の少ない時の連絡、対応等についてマニュアルを作成し周知徹底を図っている。	○	訓練は受けているが「いざ、という時には不安」という職員の声がかかるので訓練や意識づけを繰り返す必要がある。不安材料の具体策について話し合う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。	○	事業所だけの訓練でなく地域住民の参加協力を得ながら行っていくよう検討をする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、及びその弊害について説明し、事業所の工夫や取り組み方針を示している。家族等の納得の上、リスクは高くなるが本人の力の発揮や抑圧感のない自由な暮らしの大切さを説明し、理解を得られるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は一人ひとりの普段の様子をよく知り、少しでも食欲や顔色がいつもと違う様子の時はバイタルチェックを行い、変化時の記録を付けている。状況により医療機関受診に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡しきちんと服用できているかの確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて食材、おやつ、水分補給に努めている。運動を働きかけ自然排便ができるように取組んでいる。	○	排便のコントロールが悪い方には緩下剤が医師より投与されている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を全ての職員が研修により理解し、毎食後一人ひとりの能力に応じて見守りや介助を行っている。朝の体操の時間に口腔の運動を行っている(舌を動かし嚥下障害を防ぐ)。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を把握し、職員は情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染防止委員会を中心にして感染症について学習を行い、全職員で予防、対策に努めており、早期発見早期治療に努めている。委員会の規定やマニュアルを基本にして全職員が予防に努めている。また、利用者家族に同意いただき職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は毎晩漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は明るく、入り口に木製の看板がかかっている。周囲には小さな花壇があり、家庭らしさを感じる工夫をしている。玄関は安全の為スロープ形式となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所で調理する音や御飯の炊ける匂い、フロアには四季折々の場所で撮った写真やコーディネートするなど、生活感や季節感を採りいれている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には談話コーナー、和室など一人で過ごしたり、利用者同士で過ごしたり思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人愛用の調度品や思い出の品、使い慣れた物を利用することでその人らしい落ち着いた部屋作りを支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気の必要性を全職員が理解し、臭いだけでなく感染防止のためにも午前・午後と換気を行っている。又湿・温度計を食堂に掛け数値により小まめに調整している。居室では個々に応じた対応もしているが、可能な限り自然に近いように心がけている。湿度対策としてはぬれタオルを掛けたり、洗面台に水をはったり、臭い対策では炭や消臭剤を必要な所に置いている。	○	換気扇、冷房、暖房機の掃除を定期的に行い機能低下を防いでいる。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はほとんど段差なく、車椅子を使用されても一人で移動できる。廊下やトイレ、浴室には手すりを取り付け、玄関での靴の脱ぎ履きがし易いように長椅子を設置するなど安全に生活できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室がわかりにくい方には入り口にお花での目印をしたり、トイレがわかりにくい方にはドアに「トイレ」の文字を貼って混乱や失敗を防ぐように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ前に小さい花壇を作り花や野菜を植えて利用者と水やりや、デッキから成長ぶりを眺めている。又ホーム前から少し離れた所まで足を伸ばし洗濯物干しも一緒に行えるようになった。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*職員は入居者に愛情をもって接している。 *食事は栄養バランスが取れて美味しく、皆さん食欲旺盛である。